

築地から佃へ

先日、久しぶりに東京に調査に出かけた。まず朝一番で都庁で資料収集して、地下鉄大江戸線で築地に向かった。地上に上がると、観光バスに戻る訪日外国人観光客の団体さんの行列に出くわした。築地場外市場は大勢の観光客でごった返していた。狭い路地は前に進むのも困難だった。平日の昼前である。



解体中の市場を上から眺めようと、「築地魚河岸」屋上広場に上がった。無残に解体されつつある市場の跡を見ると、無性に腹が立ってきた。隅田川の向こうには、勝ちどきの巨大なタワーマンションがすぐ近くに見える。

自宅で古いUSBメモリーをチェックしていると、偶然にも10年ほど前2008年12月7日の「東京調査」の写真が見つかった。人ごみを避けて撮った市場の風景、「場外市場は移転しません」という大きな看板などが写



っていた。確か、風格のある勝鬨橋を渡って、勝ちどきから月島、そして佃まで歩いたと思う。まだ若かった。佃は現在の大阪市西淀川区の佃村が前身であり、徳川家康の命により江戸の地に移り住んだ。佃は漁師まちであり、佃煮でも有名だ。古き時代を感じさせる情緒あるところだ。

天高くそびえるのが「大川端リバーシティ21」である。バブル時代の1986年に開発が始まり、

8棟の超高層マンションが建っている。石川島播磨重工の工場跡地を活用し



て、住宅・都市整備公団や東京都、三井不動

産などが共同で開発した。1999年に竣工した「センチュリーパークタワー」は高さ180m、54階建て、756戸の巨大タワーマンションである。

ここ10数年の間に、巨大なタワーマンションが都心とその周辺に乱立するようになった。都庁で手に入れた「建築統計年報」を集計してみると、佃が位置する中央区に60m以上の超高層共同住宅は現在56ある。その半数余りは、共同住宅と事務所・店舗等の併用型であった。これからも増え続けるようである。タワマンなども含め、東京の大規模開発について論文を書いている。あと1週間で仕上げなくてはならない。

(2019年4月29日)